

2025年度 秋の紅葉ツアー「蘆花浅水荘」「石山寺」見学報告

日時：2025年11月29日（土）

場所：滋賀県大津市「蘆花浅水荘（ろかさんすいそう）」「石山寺」

主催：インテリアプランナー協会中部 交流委員会

秋の紅葉が美しい季節、当協会ではバスツアーにて滋賀県大津市を訪れ、国指定重要文化財である「蘆花浅水荘」と「石山寺」を見学しました。

蘆花浅水荘は、明治から昭和にかけて活躍した日本画家・山元春挙の別邸兼アトリエです。琵琶湖畔に佇むこの建物は、春挙自身の設計・監督による数寄屋造りの名建築です。

伝統的な和風建築の中に、当時としては斬新なガラス戸の多用や、画家の美意識が反映された空間構成が見られ、庭園と建物が一体となった景観美は圧巻です。

当日は山元春挙のお孫様の山元寛昭様にガイドを務めていただくことができました。

建物ごとの意匠や素材選び、春挙が細部にまで込めた「こだわり」について、親族ならではのエピソードを交えて解説いただきました。欄間の意匠、採光の工夫、借景の取り込み方など、画家ならではの感性と建築技術の融合に参加者一同、深く感銘を受けました。

保存状態の素晴らしいと、山元寛昭様の熱心な解説により、単なる建築見学にとどまらない、非常に中身の濃い充実した時間を過ごすことができました。

昼食は、石山寺の門前に店を構える老舗「洗心寮（せんしんりょう）」へと移動しました。こちらでは、琵琶湖の特産である「瀬田シジミ」を使った名物のしじみ飯など、滋賀ならではの郷土料理を堪能。歴史ある門前の雰囲気とともに、会員同士の会話も弾む和やかな昼食となりました。

昼食後は、紫式部ゆかりの地として名高い大本山「石山寺」を参拝しました。ここでもガイドの方にご同行いただき、単なる観光では気づけない深い歴史と建築の魅力を解説いただきました。

国宝である本堂は、平安時代の創建から長い年月をかけて増改築が繰り返されてきました。「懸造（かけづくり）」と呼ばれる崖地に建つ構造や、時代ごとの建築様式の痕跡を読み解く解説は、建築に携わる私たちにとって非常に興味深いものでした。

秘仏・如意輪観音：数十年に一度しか御開扉されないとされるご本尊「如意輪観音（によいりんかんのん）」についての貴重なお話を伺いました。安産・福德・縁結びの観音様としての信仰の深さに触れ、その莊厳な存在感に思いを馳せました。

紫式部と源氏物語：紫式部がこの寺に参籠し、湖面に映る月を見て『源氏物語』の構想を練ったとされる「源氏の間」も見学。文学と建築が織りなす空間の力に触れました。

蘆花浅水荘での近代和風建築の粋、そして石山寺での千年の歴史と信仰の空間。時代を超えた建築の素晴らしいと、地元ガイドの方々の温かいおもてなしに触れ、参加者一同、心から満足する秋の一日となりました。